



§ 26 下畑乙姫神社の浦島物語
前述の播磨風土記逸文と同じ丹後風土記逸文には『浦嶋子』として「浦島物語」が載っています。
「助けた亀に乗せられて龍宮に行き、乙姫と楽しい日々を送っていて、故郷に帰って来ると数十年経っていた」と云うもので、童謡でも有名な日本のおとぎ話です。
この説話は、木曾川の「寝覚めの床」や、横浜など全国各地にあり、東南アジアにもありますが、この垂水の下畑にもある



現在も、鳥居の額は「龍宮城」になっていて、神殿には「乙姫神社」の額がかかっています。
この下畑の浦島物語は、この乙姫神社の北の「鯛とり山」（地名現存）で浦島太郎が大きな鯛を釣り、その鯛を助けて龍宮城に行き、この大きな岩の上で目を覚ました」と云うものです。
この神社の御神体は乙姫神社の裏の大きな岩盤です。この岩に大歳神（45ページ参照）が宿っているとして古代から信仰していたのです。
昭和三十五年、神明バイパス道路（旧神明）が建設される時も、この岩盤は神さんが宿っている」と少し迂回させましたので、乙姫神社は残ったのです。

下畑の第二神明道路橋の下にある
巨大砂岩盤を御神体にした乙姫神社

